

市民景観まちづくりリーフレット①

景観まちづくりとは何ですか？

景観まちづくりは、それぞれのまちや地域が、住民ひとりひとりの資産となり、次代に引き継ぐに値する魅力的なものとなるよう、行政や住民・事業者等が協働して行う取り組みです。

景観まちづくりは、まちや地域に対して意義深く効果のある取り組みであることはもちろん、取り組む人たちにとってもやりがいのある魅力的な取り組みなのです。

◎景観まちづくりの意義と魅力

1. 身の回りの心地よさを創り出す

身近な空間の見え方や印象を美しく快適に整える景観まちづくりを通じて、身の回りの心地よさが得られます。

2. まちの個性を育む

歴史的・伝統的な景観の保全や、まちの新しい魅力をつくる景観まちづくりは、わがまちらしさ・まちの個性を育みます。

3. 地域の課題改善に役立つ

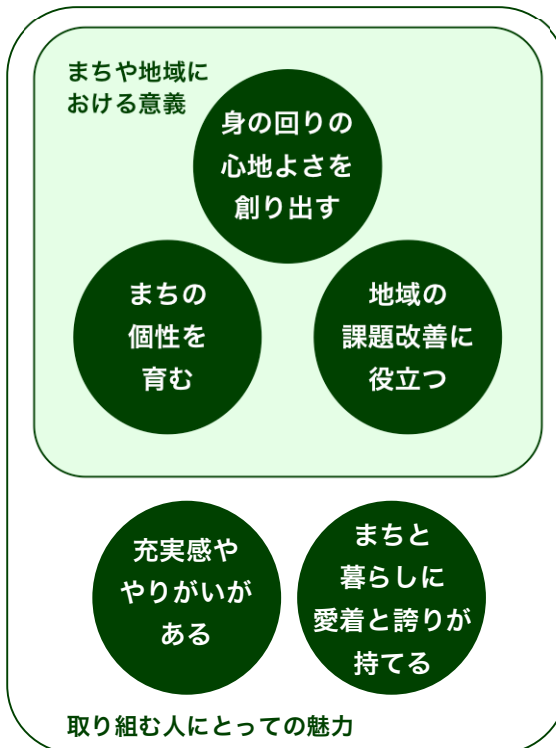
地域の活性化、コミュニティの育成などの地域の課題改善にも景観まちづくりは役立ちます。

4. 充実感ややりがいがある

景観まちづくりは、目に見える成果や地域の人々との交流などを通じて、取り組む人に大きな充実感をもたらします。

5. まちと暮らしに愛着と誇りが持てる

景観まちづくりを通じて、自分のまちや暮らしの良さに気づき、愛着や誇りを持てるようになります。



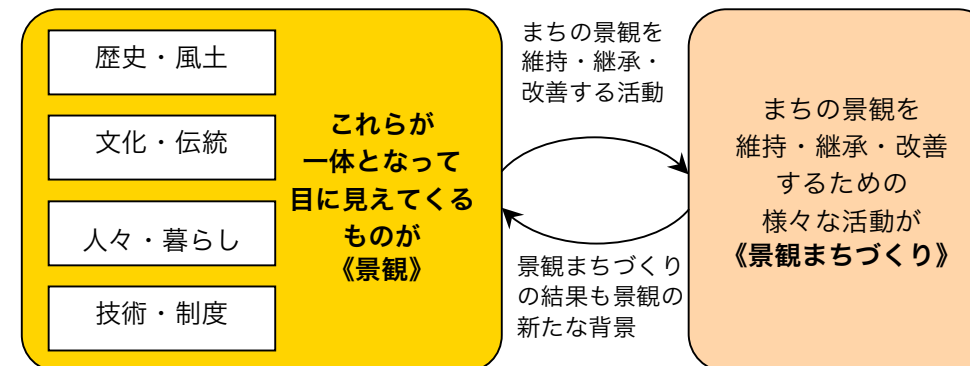
◎景観とは？ 景観まちづくりとは？

「景観」とは...

- 景観は、それぞれの地域ごとの歴史、地勢や生態系などの風土、文化や伝統、私達一人ひとりの暮らしや経済活動等と、技術の進歩や法律等の制度などが背景となってつくられるものです。
- 良好な景観は、地域の個性や特色をわかりやすく特徴づけるものであり、人々の地域に対する愛着やふるさと意識を育みます。
- 身の回りの景観のよさは、潤いある魅力的で豊かな生活環境の創出に貢献します。
- 美しく個性的な景観は、観光をはじめ、国内や世界各地との交流を活発にする役割を担います。

「景観まちづくり」とは...

- 自分たちのまちの景観の魅力を楽しみ、貴重な資産として次世代に残せるように、わがまちの景観を維持・継承・改善するための様々な取り組みが行われています。それが景観まちづくりです。
- 景観まちづくりは、現在の良好な景観を大事に保全することだけでなく、新たに、現代的で美しく魅力的な景観をつくりだすことも含みます。
- 清掃や緑化など、日々の暮らしに根ざした、まちの景観を整えるための地道な活動も、良好な景観まちづくりに貢献しています。



必読！

5人の専門家が語る景観まちづくりの魅力とそれを学ぶ意義

景観まちづくりで真の豊かさを

進士五十八 造園家・東京農工大学教授

モノからココロへはまちがい。モノもココロもだろう。寒ければ衣類、ひもじければ食、そしてわが家とよべる住が欲しい。衣食住が揃っても家族や仲間がいなければ寂しい。いい仕事をし、誉めてほしい。ひとの役にも立ちたいし、ひとはみな美しく生きたい。

真の豊かさとは、そんなすべての合計だ。わが家、わが町、わが国。わが暮らし、わが人生。モノもココロも、自然も歴史も文化も地域らしさも生産も生活も、人間関係も生き方も、そうしたものの総てが景観になる。美しい景観をよりいい風景に育てること。そのプロセスが真の豊かさを感じさせてくれるにちがいない。

未来に向けてつくる伝統的街並

大野秀敏 建築家・東京大学教授

良い街並とは歴史的連続性が感じられる街並ではないでしょうか。ただ、日本では近世から続く伝統的街並は絶滅危惧種と言っていい状態です。しかし、歴史的連続性は、過去との関係だけではありません。現在を未来に引き渡すことも大切なことです。そのためには、今ある建物を少しでも残して、それに増築したり改修したりすることで、新しい需要に応じてゆく発想が大切です。ヨーロッパの美しい街は、みなそういう風にできてきたのです。これを実行するには、制度から発想から価値観から全ての大転換が必要ですが、これが景観づくりの王道です。

景観まちづくりは生涯学習

小澤紀美子 東京学芸大学名誉教授

誰もが心地良い空間で自分らしく暮らすことを願っています。まちは子どもから大人まで、皆がお互いに支え合い、交流する“場”です。地域の歴史や風土性をいかし、住み続けたいまちは景観を居住している方々の創意で創っていかねばなりません。

景観まちづくり学習を通して、まちの昔に学び、今を知り、未来を考え、子どものまなざしで、大人のまなざしで、まちの宝を探し、その素敵さに磨きをかけていくことが地域への愛着や誇りを高め、日本人が忘れてきた“教養”の復権につながります。

教材づくりに傾注します

篠原修 土木設計家・政策研究大学院大学教授

デザインの仕事をやって一番困る、と言いか、がっかりするのは、市民に本物とまがい物を識別する力がないことである。ちょっと目新しいもの、流行を取り入れたものにすぐに満足してしまう。良き聴衆のいないところには良い音楽家は育たない、という格言の通り、デザインにうるさい市民のいないところには良いデザイン、良い風景は生まれないうら。

こういう意味で、今回の景観まちづくり教育には期待するところ大である。そして、景観まちづくり教育の最高の教材は現場、現実にあるのだから、教材に資することのできる良いデザイン、良い風景を創り出すことに今後とも全力を傾けていきたいと思う。

すべての風景にはわけがある

西村幸夫 都市設計家・東京大学教授

いかなる場所であっても理由なく通っている道もなければ無意味に造作された建物もないはず。風景を構成しているこうした要素はそれが生み出されたときには何らかの理由があり、必要性があったのです。それが無数に積み重なり、こんにちの風景となりました。道の曲がり方にも訳があったのでしょう。当たり前で、ある時はとても無秩序に見える日常的な風景も、詳しく読み解くと何らかのデザインの意図が見えてくるものです。ここからまちづくりの手がかりを得て、身の回りの風景をさらに魅力的にしていけることはきっとできるのです。